

対話があっても、再び緊張の懸念

米国と北朝鮮の間でピークに達した緊張が和らいだのは、中国が米朝対話に向けて動いたことや、米朝両国が最悪のシナリオを避けたいという危機感を抱いた結果だろう。今回はトランプ米大統領が対話に向けてボールを投げた。北朝鮮が応じるなら米朝首脳会談もありうる。場所は第三国になるだろう。

ただ、依然として可能性が高いのは米朝が対話するも核放棄などを巡り決裂し、再び緊張が高まるというシナリオだ。カギを握るのは中国。中国が北朝鮮に強い影響力を行使できないとなれば、米朝の合意も困難だ。中国は秋の共産党大会までは朝鮮半島情勢には触れたくないはずだ。

(日本経済新聞 2017年5月3日付)